

## 仕訳問題 その1 (問題)

次の各取引について仕訳をしなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	受	取	手	形	売	掛	金	割	賦	売	掛	金						
積	送	品	建	物	備	品	不	渡	手	形	創	立	費										
株	式	交	付	費	支	払	手	形	買	掛	金	未	払	金	貸	倒	引	当	金				
修	繕	引	当	金	未	払	社	債	利	息	社				退	職	給	付	引	当	金		
資	本	準	備	金	別	途	積	立	金	繰	越	利	益	剰	余	金	売	上	受	取	利	息	
社	債	償	還	益	仕	入	通	信	費	貸	倒	損	失	退	職	給	付	費	用				
社	債	利	息	社	債	償	還	損	損	益	割	賦	売	掛	金	割	賦	仮	売	上			

1. 府中商店は、委託販売のため商品 500,000 円を発送した。なお、発送費 25,000 円は現金で支払った。
2. 国分寺商店は、設立に際し株式 (@¥2,600) を 3,000 株発行し、代金は当座預金とした。なお、資本金計上額は会社法既定の最高限度額とする。なお、株式の発行費用 300,000 円は現金で支払った。
3. 小平商事株式会社は、株主総会において、繰越利益剰余金 2,500,000 円 (借方残高) を別途積立金を取り崩して全額填補することを決定した。
4. 秋津商店は、得意先に商品 200,000 円を売り上げ、代金のうち 80,000 円は同店振り出しの約束手形で受け取り、残額は 6 回の均等額払いとした。なお、販売基準により処理している。
5. 所沢商店の銀行残高証明書の金額との差異の原因は、通信費の支払いとして処理していた小切手 280,000 円が未渡してあること、売掛金 95,000 円の回収時に誤って貸借逆に記帳していたことが判明した。
6. 新座商店 (年 1 回 3 月末日決算) は、平成×9 年 3 月 31 日に、発行していた社債が満期を迎えたため、小切手を振り出して償還した。この社債は平成×4 年 4 月 1 日に額面総額 10,000,000 円を @¥100 につき @¥96 で発行したもので、償却原価法 (定額法) に基づき処理を行っている。なお、平成×6 年 3 月 31 日に額面総額の 2 分の 1 を @¥100 につき @¥98 で買入償還している。また、当期首から償還日までの償却原価法の仕訳も行うこと。
7. 朝霞商店 (決算日 : 3 月 31 日) は、決算において、退職給付費用 880,000 円を計上した。
8. 浦和商店は、所有している川口商店振り出しの約束手形 450,000 円が不渡りとなったため、償還請求費用 30,000 円を現金にて支払い、川口商店に代金の請求を行った。
9. 越谷商事株式会社は、決算に当たり、当期純利益 1,200,000 円を計上した。
10. 吉川商店は、前期発生分の売掛金 200,000 円、当期発生分の売掛金 150,000 円が貸倒れたため、適切な処理を行った。なお、貸倒引当金残高は 180,000 円である。